

2023 年度 企業家研究フォーラム賞選考について

企業家研究フォーラム賞審査委員長

柏 谷 誠

選考の経緯

2023 年度企業家研究フォーラム賞においては、著書の部では推薦のあった 5 作品および寄贈のあった図書 11 作品の中から審査員によって選ばれた計 15 作品、論文の部では寄贈のあった 2 論文、特別賞については推薦のあった 1 名の方について、2 段階の審査、3 回の審査委員会議（メール審議およびオンライン審議）において、丁寧かつ慎重な審査および審議がなされ、結果として下記の受賞者を決定した（敬称略）。

著書の部

岡室 博之（一橋大学）・西村 淳一（学習院大学）著

『研究開発支援の経済学—エビデンスに基づく政策立案に向けて—』

（有斐閣，2022 年 12 月）

授賞理由：知識にスピルオーバーが存在するために、イノベーションを起こすために不可欠な研究開発には公的支援が必要であるが、政府の失敗もあるため、政府の介入の効果を実証的に検討する必要がある、というのが本書の立場であり、差の差分分析、固定効果パネル分析、傾向スコアマッチング、操作変数法といった厳密な手法に基づいて因果推論をおこなっている。本書で扱われるテーマは数多く、産官学連携における波及効果・信頼形成・規律付け、クラスター政策における開発生産性向上・補助金などのハード支援策とネットワーク形成や助言仲介などのソフト支援策の比較・産官学支援の生産性向上に対する効果・経済産業省と文部科学省の政策効果比較、さらには自治体研究開発支援の実態と決定要因およびその効果に及んでいる。得られた結論は説得的で、政策的インプリケーションも大きく、企業家研究フォーラム賞にふさわしい力作と評価された。

論文の部

論文の部では、残念ながら該当作がなかった。

特 別 賞

橘川 武郎（国際大学教授・副学長）

授賞理由：橘川先生は、電力業ついで石油業の産業経営史に取り組み、『日本電力業の発展と松永安左エ門』（名古屋大学出版会、1995）、『日本電力業発展のダイナミズム』（名古屋大学出版会、2004）、『日本石油産業の競争力構築』（名古屋大学出版会、2012）、『戦前日本の石油攻防戦—1934年石油業法と外国石油会社—』（ミネルヴァ書房、2012）という大著を著されてきた。さらに橘川先生は2つの産業の歴史を革新的な企業家を中心に描いており、それが『松永安左エ門—生きているうち鬼といわれても—』（ミネルヴァ書房、2004）や『出光佐三—黄金の奴隷たるなかれ—』（ミネルヴァ書房、2012）といった伝記に結実している。そして東日本大震災後の電力・原子力発電についても多くの著作を発表してこられたほか、多くの単著・共著をもものにされている。また橘川先生は、青山学院大学・東京大学・一橋大学・東京理科大学・国際大学で教鞭を取り、多くの研究者を育てておられる。こうした業績に鑑み、橘川先生に対し、特別賞を贈ることとした。